

浜松市の南部、遠州灘海岸に広がる中田島砂丘は、日本三大砂丘に数えられる景勝地だ。南アルプスから天竜川で運ばれた花崗岩が由来の砂は、白くてきめ細やか。サラサラの砂に足を取られつつ、高さおよそ15mの防潮堤の急斜面を登っていくと、荒涼とした台地の先に青く輝く大海原が見えてくる。

丘の上から眺める日の出と夕日は絶景だ。しかし、一番の見どころは冬の風物詩・風紋だろう。猛烈な季節風「遠州のからつ風」によって浜から吹き上げられた砂は、白銀に輝いて大地を舞い踊り、やがて優美な波線を描いていく。この大自然の芸術を鑑賞するなら、11月〜3月、強風が吹いた翌日の早朝がおすすめ。朝日にくつきりと浮き上がる波模様には人の足跡が一つもなく、幻想的な光景に思わず時間を忘れてしまう。

一方、砂丘は問題を抱える。かつては大きな砂の山が三つあったが、佐久間ダムの完成以降、海岸がやせ、砂丘も低くなってしまった。これでは津波の危険性が高まると、地域住民が平成17年に「海岸侵食災害より住民を守る会」を結成。砂の飛散を防ぐ垣根「堆砂垣」の設置と清掃活動を行い、砂丘の維持・復活に努めている。毎年行われていた堆砂垣の設置イベントには、地元住民や高校生に加え、企業の有志ら600人ほどが参加。小学生の授業でも取り組むなど、多くの人の力で砂丘が維持されてきた。

地球が長い年月をかけて築いてきた自然の芸術は、はかなく脆くもある。そんな諸行無常を感じさせる砂の営みは、人類の英知を尽くして守るべき宝物だ。



風と砂が創る一度きりのアート
中田島砂丘 | 浜松市南区 | ★JTBJ本の絶景 感動の瞬間100選

contents

01 有馬 朗人氏を悼む

03 [世界クラスの美しい“ふじのくに”]
中田島砂丘

05 [知事対談]
近代文明を見直し
第三の価値を生み出す。
「結びの思想」の拠点は静岡に。
広島大学名誉教授
町田 宗鳳氏

09 [スポーツの聖地づくり]
障害者スポーツの裾野拡大で
誰もが輝けるスポーツの聖地へ!

11 [県政特集]
自分らしさをかなえる
“ふじのくに”での新しい暮らし方

13 [ふじのくにブランド]
枝完熟 マキノハニー

14 [Living My Dream Life in ふじのくに]
神崎 悠輔さん



毎年5月3日〜5日に開催(令和2年は中止)される「浜松まつり」の凧揚げ合戦の様子。砂丘近くの会場には、県外からも多くの見物客が訪れる。



「海岸侵食災害より住民を守る会」の鈴木利幸会長(左)と妻のふじ子さん。「鳥取まで行かなくてもここで十分。と観光客に言われるとうれしいですね」。



総延長17.5kmの浜松市沿岸域防潮堤。浜松市沿岸を津波被害から守る。



堆砂垣設置の様子。砂が垣根にぶつかって溜まることで砂丘が高く保たれる。

中田島砂丘
静岡県浜松市南区中田島
JR浜松駅から遠鉄バス「中田島車庫行き」で「中田島砂丘」下車、またはタクシーで約10分
東名高速道路・浜松ICより約25分
遠州灘海浜公園駐車場利用可(無料)
(8:00~17:30 ※4~9月は19:00閉門)

【お問い合わせ先】
海岸侵食災害より住民を守る会
053-441-8610(鈴木)

